加茂市五番町商店街

(加茂市五番町商店街振興組合)

新潟県加茂市

! 取組のポイント

アーケードに加茂の特産品を装飾し、加茂の伝統を伝えながら、「食」に特化したイベントの開催や商店街づくりを実施し活性化を図る。

取組の背景

商業環境の悪化やイベントのマンネリ化を打開へ

加茂市五番町商店街の特徴として、食品を扱う店舗が多いことから、これまでは「食」の加茂市五番町をPRするために「ごっつぉ(ご馳走)まつり」や「納涼祭」といったイベント事業に取り組んできたが、五番町周辺の人口減少、高齢化による客単価の減少など、商業環境の悪化にともない、さらなる集客力を得ることが大きな課題となっている。また、イベント事業が定着する反面、イベントのマンネリ化や新鮮味が欠けるといった問題もある。さらには日常の集客率や個店の売上の低下なども課題に挙げられる。

こういった中、加茂市が「北越の小京都」と呼ばれていることを踏まえ、中心街の落ち着いた街並みを大切にしながら商店街として活性化する方法を探し、地元ならではの資源活用を検討してきた。

商店街内外からたくさんの美味しい食べ物が 集まる五番町ごっつぉまつり



次に、商店街のアーケードの完成(2009年)をきっかけに、アーケード内に各店舗の逸品をPRするパネルや懐かしい昭和時代のお祭りの写真看板、まちの安心・安全のための防犯カメラ、お客様がゆっくり買い物できるように各店舗名やキャッチフレーズを方言で入れたベンチなども設置した。アーケードには季節感を表すもののほかに、地元特産品なども装飾した(2013年には伝統織物の「加茂縞」を利用した暖簾、2015年には伝統和紙の「加茂紙」を利用した暖簾、2015年には伝統和紙の「加茂紙」を利用した電板など)。最近ではアーケードの支柱に昭和時代の商店街が一目でわかる「五番町おもいで写真」を添えた「安全PRプレート」も取り付けた。

また、加茂市五番町商店街の強みである若手・おかみさん会(女性部)の新しい発想や積極的な活躍が中心となり、地元の本量寺保育園や若宮中学校、加茂農林高校、新潟経営大学、加茂青年会議所など様々な団体と商店街が連携してイベントを実施することで、商店街を盛り上げている。2014年には各店舗のテント販売をはじめ、各学校の出し物やご当地ヒーローショー、魚のつかみどり後に炭火焼で食す体験、もちつき大会などのイベントを企画・開催した。

「昭和時代の地元」の懐かしい写真を添えた安全PRプレート



取組の内容

ハード面・ソフト面それぞれに新たな取組を実施

まず、2006年に、加茂市は商店街の空き店舗を「地域交流センター」に改装した。センター内には地元スーパーや多目的ホール、浴場などのコミュニティ施設が設置された。

取組の成果

コミュニティ施設の設置及び充実したイベントにより、人通りが増加

加茂市が運営・管理する「地域交流センター」は、近隣商店街の集客の要となり、日常の人通りが 増加した。 商店街内の環境改善に取り組んだインフラ整備は、地域のお客様から好評を得ている。今後はベンチの増設をはじめ、アーケードの装飾や写真看板、安全プレートなどの工夫も検討している。

また、商店街が様々な団体と連携したことで、イベントの内容が充実、新規性が向上し、来街者の増加にもつながった。地元のお客様からも次のイベントに大きな期待をされているため、新たなイベントを継続して企画していく予定。さらに、「食」に特化した商店街づくりを今後も継続していく上で、商店街独自の名物食品・土産品などの商品開発も計画していく予定である。

実 施 体 制

各組合員がそれぞれ総務・事業・まちづくり・アーケード委員会に配属されている中で、若手・おかみさん会(女性部)が率先して組合活動に取り組む体制が確立されている。

加茂市は「地域交流センター」の運営・管理をはじめ、既存の郊外型大型店と商店街の状況を考慮し、近隣の郊外において500m²以上の大型SCの新たな出店を規制する条例を定め、商店街を支援している。

さらに、商店街が地元の保育園から大学、加茂青年会議所など様々な団体と積極的に関わり、アイデア溢れる取組を展開していくことで、今後も安定的な集客・売上を見込み、商店街の活性化につなげていく。

七輪を囲んで地元精肉店の美味しい焼肉を楽しむ納涼祭



キーパーソンからのコメント

加茂市五番町商店街振興組合 理事長 川崎 晃



他団体との連携でイベントが進化

私たちの商店街は「食」をテーマに長年イベントを実施してきましたが、マンネリ化が問題となっていました。そこで商店街の枠を超え、地元の保育園児から学生、他団体などに声をかけ、現在では他団体の皆様から多くのご協力を頂きながら、おかげさまで中身の濃い、充実したイベントを開催しております。地元のお客様にも大変好評で、次回に対する大きな期待も頂戴しています。今後も他団体の皆様のご協力に感謝しながら、商店街としてできることを存分に行っていき、商店街を盛り上げていきたいと考えています。

「食」の五番町としてさらなる活性化

「食」に特化したイベントを実施してきましたが、商店街の中には食品を扱わないお店もあります。そのお店と「食」をどうつなげるかが今後の課題でもあります。また、地元はもちろん、自然的・歴史的景観に恵まれた加茂市に観光で来てくださるお客様に注目されるような五番町商店街の名物食品やお土産品などの商品開発をしていきたいと考えています。その商品を商店街活性化の起爆剤として、日常の各店舗の売上アップにつなげていくことが目標です。その上で、お客様に喜ばれるような五番町を目指していきます。

基本データ

所 在 地 新潟県加茂市五番町

人 口 約3万人(加茂市)

電 話/F A X 0256-53-2057

会 員 数 30名

店 舗 数 20店舗(買回り品小売店7、最寄品小売店7、飲食店1、サービス店3、その他2)

商店街の類型 地域型商店街

主 な 客 層 主婦、高齢者、家族連れ

商店街概要

加茂市は新潟県のほぼ中心に位置し、古くから「北越の小京都」といわれている市である。加茂市五番町商店街は加茂駅から約1kmの場所に位置しており、鮮魚店、食肉店、惣菜店など、食品を扱う店舗が多いことから、「食」をテーマにしたまちづくりを進めている。2005年度からの商店街の大通りの拡幅事業に合わせ、アーケードを建設した(2009年に完成)。2006年には加茂市が空き店舗を再生させて、浴場付のコミュニティセンターや多目的ホールを併設した「地域交流センター」を設置、近隣商店街の核店舗として集客の要になっている。